



市議会報告

2022年
6月定例市議会・報告

Vol・13

小林たかひろ

今年の梅雨は、例年に比べ18日早く、その期間は、昨年より14日早い16日間しかなく最短記録を塗り替えました。暑さが続くのか…と思いつきや台風4号の発生。幸い大事には至りませんでしたが、今後は気温も湿気も高くなります。熱中症には要注意です。

さて、6月定例市議会も24日に閉幕。市長から提案された条例や補正予算等は会期途中の追加提案も含め23件でした。一般質問では「大規模災害時の備え」や「ひむかYOUゆうクラブ」の今後について質問しました。その概要を皆さんにお届けします。



「一般質問」《小林の質問》

● 大規模災害に備える日向市の取組みについて

質問① 市内周辺部の避難ルートには、危険な空き家があり、巨大地震の際には倒壊して通行できなくなる恐れがあります。対応を急ぐべきと考えますが、どうでしょうか。

《市長・部長の答弁》

倒壊の恐れがある空き家は、今年の3月末で124件を確認しています。特に道路や周辺民家に近接している空き家は「特定空き家」に認定して所有者に補助金制度の活用などの指導を行い、除却に取り組んでいます。

質問② 各地区の自主防災組織で「避難マニュアル」を策定している防災会は少ないが、その要因と対応を問います。

《市長・部長の答弁》

令和元年度に「地区防災計画策定の手引き」を各自主防災会に配布して、地域の現状に応じたマニュアルの策定・支援に努めています。しかしながら、地区役員が多忙なことや、どう取り組んで良いのか分からず…。コロナ禍による影響…などの理由から策定が進んでいないのが現状です。

策定に求められるのは地域の主体的な取組みですから、今後も市の担当者が班長会などに積極的に出向いて、策定の支援に努めます。

防災行政無線スピーカー



受庭防災行政無線で受信できる戸別受信機（1台十万円）

質問③ 防災行政無線によるアナウンスは内容が雨戸や風雨などでさえぎられて聴きづらいため、家庭内への戸別受信機の配備を望む声を多く聞きます。また、過去の大災害の教訓から、迅速な情報の収集や伝達手段のあり方が問われています。アナログからデジタルシステムへ切り替える必要性を感じますがどうでしょうか。

国土交通省が推奨する洪水からの「逃げ遅れゼロ」を目指す「マイ・タイムライン」の仕組みを導入する自治体が増えています。日向市の取組みはどうですか？

《市長・部長の答弁》

戸別受信機は、区長公民館長宅や小中学校、土砂災害特別警戒区域内の家庭（一部）に設置しています。

各個人への情報伝達手段としては、携帯電話や固定電話、FAXに避難情報を配信できるサービスの登録を推進しています。他にも、公式ツイッター、フェイスブック、テレビのテロップ（文字伝達）など様々な発信に取組んでいます。

また、情報入手についても、SNSを利用したシステムの検証を行うなど、デジタル化に向けた取組みを行っています。

マイ・タイムラインは、防災訓練や防災講和の機会を通して、紙ベースによる作成を支援しています。



夏もいよいよ本番。金ヶ浜、お倉ヶ浜では、サーフィンや海水浴などのシーズンを迎えています

※「マイ・タイムライン」：「知る・気づく・考える」

洪水のような進行型の災害が発生したときに、「いつ」、「何をすれば良いのか」を各世帯・個人が前もって整理しておく防災計画です。

台風の接近などで河川の水位が上昇したときなどに、市民の皆さん一人ひとりがとるべき行動を時系列に整理しておくことで「逃げ遅れゼロ」を目指すための、自分自身の行動のチェックリストとなります。

国土交通省では、全国の自治体に向けて広く住民の皆さんに作成を呼び掛けています。

質問④ 指定緊急避難場所「避難山」は、長時間繰り返される津波の押し波、引き波に耐えられるのか疑問視する市民は多くいます。強度について、避難山周辺の住民の皆さんに周知する必要性を感じますがどうですか。

《市長・部長の答弁》

地盤調査や地震・津波の解析を行い、津波の高さや流速などを解析して山の形や高さを決定して造っていますので、十分な強度が保たれています。

周辺住民の皆さんには、地域別防災講話などを通じて改めて周知したいと考えています。



質問⑤ 電線や電話線などにからむ支障木については、その都度、自治会長から管理会社へ連絡しますが、早く対応に頭を痛める自治会も多いと聞きます。災害時の停電や通信網の遮断を未然に防ぐ意味で、日ごろから点検、伐木の対応が求められますが、管理会社へ要請する考えはないでしょうか。

《市長・部長の答弁》

市道パトロールなどで電線等に著しく影響を及ぼしている状態が確認された場合は、電線等の管理者に伐採の要請を行っています。今後も、管理者との連携を図りながら、適切な対応を要請します。

※Wi-Fiとは、家の中で使っているパソコンやスマートフォンなどのネットワーク対応端末が、ケーブルではなく無線の電波によって接続できるようになる便利な方式です

【一般質問】 ●大規模災害に備える日向市の取組み

質問⑥ 指定避難所における非常電源装置やWi-Fiの整備についてお尋ねします。

また、ペット同伴での受入れは、全ての指定避難所で可能なのでしょうか。

《市長・部長の答弁》

非常電源装置は、小中学校5校に太陽光発電・蓄電設備を配備。未整備の他校、公共施設へは市が備蓄している機器を配備します。

また、自治公民館などへは、自主防災会が備蓄している発電機による対応を想定しています。

Wi-Fiは、中央公民館など3施設で本年度に配備予定です。ペット受入れですが、苦手な方やアレルギーを持つ方なども避難生活を送ることから、動線が交わらない屋外の専用の区画で受け入れることにしています。また、最低限のしつけやペット飼養に必要な物資の備蓄(飼い主)についての啓発も行っています。

質問⑦ 耳川河口(東郷町域も含む)の堆積土砂は、洪水の要因となります。私が過去に行った質問の答弁では「管理者である県へ要望する」とのことでした。その後の推移を問います。

また、中山間地域で携帯電話の不感エリアやテレビの不具合も散見されていますが、対応を伺います。更には、急傾斜地崩壊防止工事を待ち望んでいる地区もありますが、今後の進捗状況について問います。



土砂の堆積が進む耳川河口。過去の台風で洪水が発生。一部の住家が浸水するなど、甚大な被害が出ました。かさ上げ工事も竣工しましたが、このまま堆積が進むと川床が高くなり、再度、かさ上げ工事が必要となります。このままでは良いのでしょうか。

《市長・部長の答弁》

堆積土砂の浚渫は国の交付金を活用して、東郷町の八重原・中野原・福瀬地区で河道の掘削が実施されています。今後は、「耳川水系流域治水プロジェクト」の計画に基づき、浚渫が行われると聞いています。

携帯電話の不感エリアの調査は、平成19年度に行つており、解消されたことを確認しています。

テレビの共同アンテナについては、地デジ放送移行後に一部の地域で経年劣化による不具合があることを承知しています。引き続き受信状況を確認したいと思います。

急傾斜地崩壊防止工事は、現在、県又は市の事業で、富高・塩見・新財地区を実施しています。今後は、事業採択要件を満たしていることを確認した上で県と協議し、決定します。

質問⑧ 大規模災害時後の物資輸送ルートとして、東九州自動車道や国道ほか県道も防災計画書に記載されています。加えて、迂回路として市道についても待ったなしの改修整備が急がれますかどうでしょうか。

《市長・部長の答弁》

市道については、現在整備中の継続路線や地区からの要望路線を対象に緊急性や安全性などを総合的に評価しながら、計画的に整備しています。

Back Stage(編集後記) ▶今回は、豪雨や洪水、地震・津波などの「大規模災害」がもし起きたら…という想定で質問。風水害は気象学の進歩で何とか事前に予測することが可能だが、地震・津波は予測できない。万が一を想定しての質問に一部、納得できない答弁もあった。▶突然起きた地震や津波は、市の職員の支援は當てに出来ない。ということは、「自分の命は自分で守る」しかない。また、介助が必要な方は、地域の方々の力を借りなければならない。日ごろから、ご近所さんへ協力をお願いするなどの事前の備えは必須。▶総務省は、防災無線に替わる**テレビの地デジ放送を活用した新たな防災情報の提供システム**を一部の自治体で実証実験している。現在の戸別受信機は一台約10万円程度。このシステムだと1~2万円ほどで購入可能。しかも、声だけではなく文字表示もあり、障がい者に優しい画期的なシステム。更には、整備費の7割を国が自治体に特別に交付する仕組みもある。質問で小職が執行部に対して提案したが、誰ひとり取り残さない「SDGs」を総合計画の基軸に据える日向市が他自治体に先駆け、「モデル地区」として取組んで欲しい。▶携帯の不感エリアは小職も確認済み。災害時の命を繋ぐ生活インフラ「携帯電話」での通話は、昨今、発生した障害で実証済み。「エリアの再調査」は必須だ。 [kobat]

質問⑨ 各地域で防災力アップのリーダーとしての役割を担い、各地区や学校等で出前講座を行っている「防災士ネットワーク」との連携強化や「防災士」の資格取得者増の取組みを急ぐべきだと考えますがどうでしょうか。

《市長・部長の答弁》

「防災士養成事業補助金制度」を平成26年度に定めて、支援しています。連携については、総合防災訓練の協力や防災講演会を協働で開催などを行っています。更なる資格取得者増や連携強化に取組みます。

【一般質問】 ●「ひむかYOUゆうクラブ」の今後について

総合型地域スポーツクラブ「ひむかYOUゆうクラブ」の活動の評価について伺います。また、同クラブで使用する備品の保管場所として、旧岩脇中の部活動棟を間借りしています。旧校舎や体育館等は本年9月から解体されるものの、部活動棟は、解体されないと聞いています。なのに、退去を要求されているとのことですが理由をお尋ねします。

《教育長の答弁》

同クラブは、設立以来15年に渡り、日向市の生涯スポーツの中核を担われ、生きがいづくりや健康長寿にも貢献いただいているです。

同校舎の解体工事では、国道10号から2本の取付け道路を使用することから、安全上の配慮から保管場所の移転についてお願いしているものです。代替案については、今後、更に協議を重ねることにしています。

市長提出議案

①水道料・基本料金を半年間免除	コロナ禍やウクライナ情勢の影響から多方面にわたり物価の上昇が続いているので、市内の上水道・簡易水道を使用しているご家庭の8月の検針分から来年1月までの半年間、基本料金が免除されます。	
	一般家庭の口径は13ミリから25ミリで基本料金は1100円。6ヶ月で計6600円が免除されます。	
②畜産農家にも支援金	農家現行支援事業の上乗せとして、繁殖雌牛5万円/1頭。肥育素牛2万円/1頭当たり1万円。	
▼養牛導入経費の一部支援	令和4年4月～令和5年3月導入令和5年1月1日から令和6年6月30日までの期間	

●水道料金値上げの議案も提出され、可決されました。	▼養鶏農家の飼料価格高騰分・支援額	
	令和4年1月～12月にまでの飼料費用の5%又は20万円のいずれか低い額。	
②水道料金値上げの議案も提出され、可決されました。	人口減少が進む中で給水収益も減少。また、東日本大震災や熊本地震による甚大な被害の教訓から、老朽管の更新と耐震管の取替補強工事を加速して、災害時においても安心・安全な水道水を供給することが求められます。このことから、水道料金が26年ぶりに2段階に分けて改定されます。	①令和5年1月1日から令和6年6月30日までの期間に現行料金から平均して15・2%。
②令和6年7月1日以降は、現行料金から平均して24・7%。(4人世帯の場合:①+176円→682円アップ)	水道管の総延長は約391キロ。うち耐震化済みの管路は約63キロで、全体の16・27%程度しか進んでいません。料金の改定で耐震管整備が加速されます。	

▶皆さんのが困っていることやご意見、ご要望、ご提案などがありましたら、いつでも気軽にお電話、メール、SNS(Facebook、Line)でご連絡ください。

(市の施設や道路、高齢者等の介護、教育問題など)

小林たかひろ事務所

▶住所:〒889-1112/日向市大字幸脇1088番地2

▶Tel・Fax:0982-58-0073 携帯:090-4347-2712

▶メール:kobat1125@gmail.com

▶小林たかひろホームページ:kobat.mimikawa.net

